

注意点1



人差指を寝かせて
高音弦をミュートせよ!

メイン・フレーズ1小節目のような開放弦を含むパワー・コードは、人差指を使って押弦しよう(写真①)。この時、指を寝かせて高音弦をミュートすることも大切なポイントになる。中指で押弦することもできるが、指が寝かしにくく、ほかのフレーズにもスムーズに繋げていけないことが多いので、お勧めできない(写真②)。



開放弦を含むパワー・コードフォーム。人差指を使うことによって、コードを的確に鳴らすことができる。



中指で押弦すると、ミュートが甘くなったり、ほかのフレーズにスムーズに繋げられないことがある。

注意点2

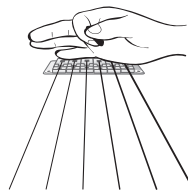


ブリッジ・ミュート時は
強めにピッキングしよう

このメイン・フレーズでは、“ミュート音”と“ノン・ミュート音”を的確に弾き分けるために、ブリッジ・ミュート時とノン・ミュート時の右手とブリッジの距離感を把握しておくことが大切だ(図1)。また、ブリッジ・ミュートを掛けたコードは弦の振動が抑えられて音が小さくなるので、少し強めにピッキングするとよいだろう。

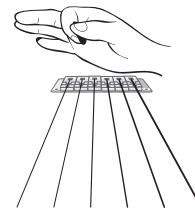
図1 右手とブリッジの距離

ミュート時



ブリッジに右手側面を適切な力加減で乗せる。

ノン・ミュート時



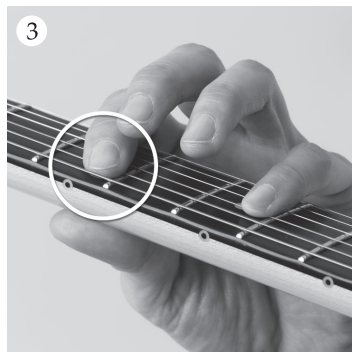
右手をブリッジから少しだけ離す。

注意点3

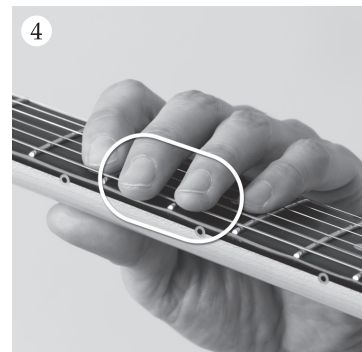


左指を活用して
余弦の振動を完全カット!

パワー・コードを演奏する時には、余弦のミュートにも気を配ることが大切だ。人差指の先端で低音弦、腹部分で高音弦の振動をしっかり抑えよう(写真③)。さらに、フレーズによっては、中指と薬指を活用して、低音弦をミュートするとよい(写真④)。このような余弦のミュート・テクニックを身につけて、クリアなサウンドを生み出そう。



5弦や4弦ルートのパワー・コードを演奏する時には、人差指の先端を使って低音弦をミュートしよう。



中指や薬指も活用することによって、低音弦の余計な振動を的確に抑えられる。